

川崎市長・川崎市議会議員長・JRへ要望書を提出

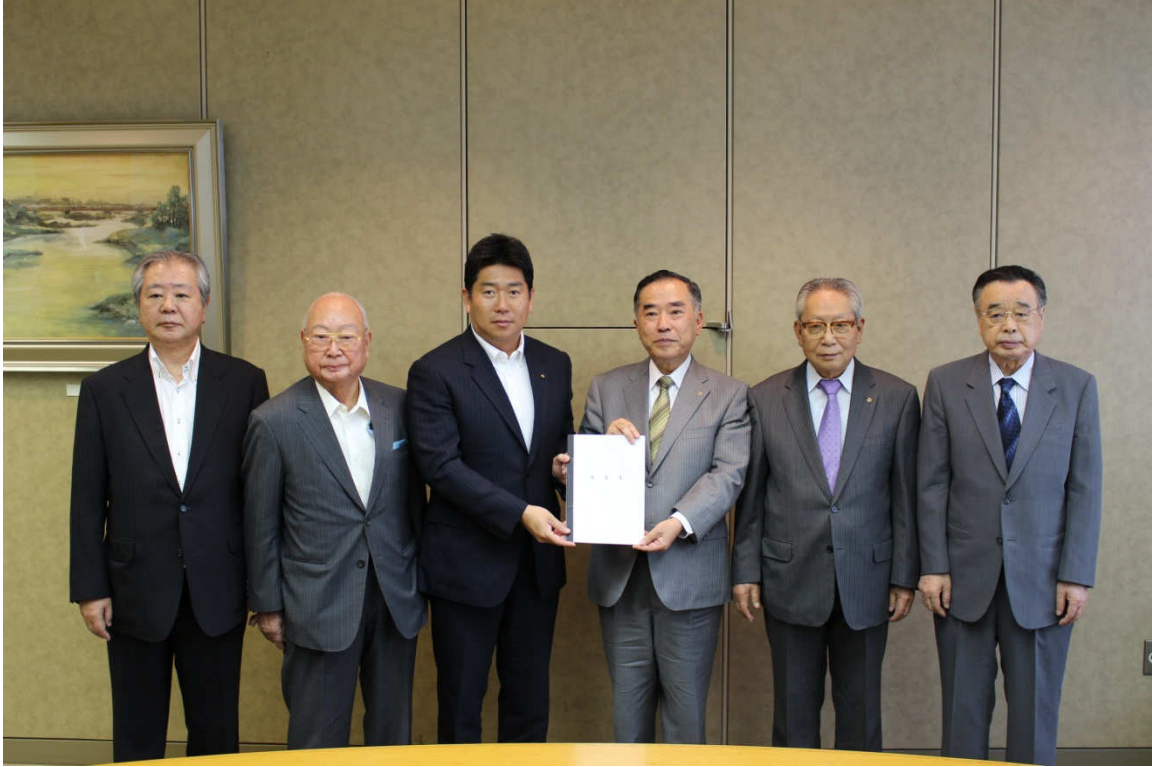
(平成 27 年 5 月 27 日)

「さいか屋川崎店閉店に伴う跡地の有効活用について (要望)」

「川崎駅東口周辺地区再生に向けて (試案)」

「JR川崎駅南口改札口の設置と北口早期整備について (要望)」

「川崎駅周辺地区における大型観光バス駐停車場の設置について (要望)」



左より富田委員長、斎藤代表理事・会長、福田市長、山田会頭、猪熊会長、馬場会長



左より富田委員長、馬場会長、山田会頭、石田議長、斎藤代表理事・会長、猪熊会長

平成27年5月27日

川崎市長 福田 紀彦 様
川崎市議会議長 石田 康博 様

川崎商工会議所 会頭 山田 長満
一般社団法人川崎市観光協会 代表理事・会長 斎藤 文夫
川崎駅前商店街連合会 会長 馬場 義弘
川崎中央商店街連合会 会長 猪熊 俊夫

さいか屋川崎店閉店に伴う跡地の有効活用について（要望）

平素、川崎商工会議所並びに地元産業界の事業活動につきましては、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昭和31年4月に開業して以来、地元密着型の総合百貨店として、地域住民に親しまれてきましたさいか屋川崎店は、平成27年5月31日をもって閉店となります。さいか屋川崎店開業以来、川崎駅周辺の商業施設においては、昭和33年に駅ビルかわさき（現・アトレ川崎）、昭和55年に川崎岡田屋モアーズ、昭和61年に川崎アゼリア地下街、昭和63年に川崎ルフロン、平成15年に川崎ダイス、平成18年にラゾーナ川崎が開業する等商業集積は進み、川崎駅東口の商業環境が大きく変わる中、川崎駅前唯一の総合百貨店として歩んできました。

また、さいか屋川崎店は、立地環境にも恵まれ、銀柳街商店街や仲見世通り商店街など、個性あふれる商店街の集積地である川崎駅周辺の回遊性向上にも寄与され、駅前商業の発展に多大な貢献をしてきたことは言うまでもありません。

しかしながら、半世紀以上の営業に幕を閉じ、この度閉店の運びとなったことは、地域経済にとって、また地域住民にとっても、大きな損失となることは間違いありません。

現在、JR川崎駅北口自由通路整備が進められております。これにより、川崎駅北口が誕生し、西口への移動が容易になり人の流れが大きく変わります。対して川崎駅東口、特に日航ホテルやルフロン側南口については、さいか屋の賑わいがなくなれば、回遊性の確保に支障をきたすことにもなりかねません。

さいか屋のある土地（以下当該用地）は、JR川崎駅に面しまさに将来に亘り川崎市の表玄関ともいえる立地を有しております。当該用地を含む川崎駅周辺地区は、都市の国際化競争力の強化の観点から、特に重要な地域として都市再生特別措置法に基づいて都市再生の拠点となるべく「都市再生緊急整備地域」の指定を国より受けております。よって、当該用地の土地利用及び建築用途においては、単に一施設の利用にとどまらず、川崎駅東口の都市機能及び都市景観の形成に資するものであることが望まれます。その観点からも、今後当該用地の土地利用及び建築利用においては、川崎駅周辺地区にふさわしい機能と施設（シティホテル、コンベンション、文化集客施設、複合商業施設など）となるように十分なご指導及び積極的な誘導策を講じられるように要望するものであります。

なお、川崎駅東口再生に向けて、川崎商工会議所川崎駅周辺再開発特別委員会では、別紙のとおり試案ではございますが、「川崎駅東口周辺地区再生に向けて」として、東口地区全体の今後の目標、拠点整備の誘導方向などをまとめてみました。川崎駅東口につきましては、そのポテンシャルや既存資源など特性を活かして活力と魅力が溢れるまちづくりが求められる中、さいか屋跡地は、南口周辺地区の要となる地区でありますので、東口全体のまちづくりという観点からも有効な活用策を誘導していただきたいと存じます。

つきましては、貴台におかれましては斯かる状況をご斟酌いただき、さいか屋川崎店跡地の有効活用に向けて特段のご配慮を賜りたく、地元産業界の総意として、ここに要望するものであります。

以上

平成27年5月27日

川崎市長 福田 紀彦 様
川崎市議会議員 石田 康博 様
東日本旅客鉄道株式会社
執行役員横浜支社長 平野 邦彦 様

川崎商工会議所 会頭 山田 長満
一般社団法人川崎市観光協会 代表理事・会長 斎藤 文夫
川崎駅前商店街連合会 会長 馬場 義弘
川崎中央商店街連合会 会長 猪熊 俊夫

J R川崎駅南口改札口の設置と北口早期整備について（要望）

平素、川崎商工会議所並びに地元産業界の事業活動につきましては、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、J R川崎駅東西自由通路と橋上駅舎は、人口146万人都市川崎の玄関口として名実ともに風格と魅力を備えた施設として広く市民をはじめ通勤・通学に利用されておりますことは、ご同慶の至りでございます。

しかしながら、整備から四半世紀が経ち、その後都市整備も進行し、平成16年には「ミューザ川崎シンフォニーホール」、18年には「ラゾーナ川崎プラザ」が開業し、特にラゾーナ川崎プラザは全国1の売り上げを誇る商業施設として集客力が高く、休日ともなると川崎駅西口の通行量は12万人を超えています。さらに、昨年3月には川崎駅西口前に約7,800人が就業する東芝スマートコミュニティセンターが完成するとともに、本年8月にはキャノン柳町プロジェクトのオフィス棟竣工により、2,500人の就業者の増加が見込まれる他、今後J R川崎変電所跡地の再開発も予定されるなど、川崎駅の乗降客数は確実に増加します。

このように駅周辺の再開発が進展する中、川崎駅を利用する就業人口・来街人口はますます増加していくこととなり、川崎駅のホーム・階段・改札口付近での混雑、特に朝夕のラッシュ時の混雑は、これまで以上のものとなることが予想されます。

災害時は言うに及ばず、平時におきましても駅利用者、特に高齢の方・障害のある方の事故・災害を容易に惹起することが強く懸念される場所であり、混雑の解消が急務と考えます。

北口自由通路整備につきましては平成29年の供用開始を目指し、整備がすすめられておりますが、早期に整備することが必要で、併せて、川崎駅東西自由通路・北口自由通路とともに、南口の改札口を設置することでさらに混雑を緩和し、川崎駅周辺の回遊性を高めることになり、商業等の均衡ある発展に寄与するものと考えます。

つきましては、貴台におかれましては斯かる状況をご斟酌いただき、川崎駅北口早期整備と南口改札口の設置に向けて特段のご配慮を賜りたく、地元産業界の総意として、ここに要望するものであります。

要望事由

1. 国際都市川崎に相応しい魅力ある駅づくりができる

川崎駅は国際都市、先進研究開発都市、音楽と映像の街を標榜する川崎市の顔として誰もが来たくなる駅が求められている。南口改札は北口開発と合わせて美観のみならず商業流通・快適生活・先端技術等を駆使したスマートシティにふさわしい駅として甦る。

2. 人口・利用者の増加に対する危険回避と混雑緩和策となる

J R東日本発表の平成25年の川崎駅乗降客数は1日平均394,000人で首都圏では12番目、また平成23年までの10年間の駅別マンション供給戸数は7803戸（東京カンテイ発表）で首都圏最多、政令指定都市での人口増加率も川崎がトップ、人口増加による駅利用者の増加は明確である。朝夕ラッシュ時の混雑は現在においても危険な状態であり、危険回避と混雑緩和のためにも南口改札口設置は即効策となる。

3. 安全性の確保と乗換え跨線橋の老朽化対策が実現する

北口自由通路整備に関しては、平成29年の供用開始予定で、平成27年度中には、中央北口が先行して供用される予定であるが、工事が遅延する可能性がある一方で、川崎駅南側については、キャノンのオフィス棟の竣工や、更にJ R川崎変電所跡地の再開発に伴い、利用客の増加が見込まれるにも関わらず、現在の南側乗換え跨線橋は老朽化が激しく、災害時駅外に出られず混乱を招く恐れがあり、緊急性を要する。この事態は南口改札口設置で改善される。

4. 通行量に対する備えも万全となる

かわさきタウンマネジメント機関（かわさきTMO）が平成27年3月に実施した通行量調査によると、日航ホテル前およびアゼリア新川通り地下街の南口周辺の通行量は、タワーリパーク前およびアゼリア市役所通り地下街の北口周辺の通行量を上回っており、南口駅改札利用者の潜在需要は高い。また生活空間として北口と合わせてバランスのとれた駅が実現できる。

5. 南口周辺に集中して開発が進む大型施設への対応が図れる

駅南口周辺には昨年、東芝スマートコミュニティセンターが完成するとともに、本年8月のキャノンオフィス棟の竣工、さらに、J R川崎変電所跡地開発等が今後計画されており、企業社員・関係者など南口周辺の昼夜間人口が大幅に増えることが予想される。近い将来において駅南口周辺の環境が大きく変わることから、南口改札の整備によって先見性のある駅・機能的な駅が実現できる。

6. 駅周辺地域の発展に不可欠な歩行者回遊性が確保される

駅周辺の居住者あるいは周辺事業所の勤務者にとって、東西・南北・地上・地下などネットワーク状に通路が確保される効果は大きく、北口開発と合わせてその移動の迅速性・多様性は商業面・生活面・防災面など多大な都市機能や地域発展を促進することができる。

以上

平成27年5月27日

川崎市長 福田 紀彦 様
川崎市議会議員 石田 康博 様

川崎商工会議所 会頭 山田 長満
一般社団法人川崎市観光協会 代表理事・会長 斎藤 文夫
川崎駅前商店街連合会 会長 馬場 義弘
川崎中央商店街連合会 会長 猪熊 俊夫

川崎駅周辺地区における大型観光バス駐停車場の設置について（要望）

平素、川崎商工会議所並びに地元産業界の事業活動につきましては、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、川崎市では、川崎駅周辺を既存の高い商業・業務機能の集積を活かしながら、東西の回遊性及び利便性のより一層の向上やバリアフリー対策、総合的自転車対策、緑の景観形成など、社会的ニーズに対応した広域拠点としての拠点機能の強化に向けて「川崎駅周辺総合整備事業」を推進され、川崎駅東口駅前広場が整備されましたことは、ご同慶の至りでございます。

また、一昨年高速路線バスの発着所が「ラ・チッタデッラ」前に設置され、各地に出かける利便性が高まると共に、各地からの集客も期待されるところであります。

しかしながら、駅周辺は数多くの系統を抱える路線バスや、乗用車による来街者の増加と相俟って、川崎駅前周辺地域は慢性的な混雑状態にあります。このような中、川崎駅周辺には観光客の乗降が可能な大型観光バス駐停車場が不足しております。

近年、産業観光という観光分野が注目され、工場夜景ツアーや東芝未来科学館、味の素川崎工場見学をはじめとした、産業観光資源が豊富な川崎市においては、今後も観光客が増加すると確信しております。こうした産業観光と、東海道川崎宿交流館や川崎大師、海外からの買物客誘致を連動させたツアーなどにより、観光客の川崎駅周辺への誘客が課題となっております。さらにアメリカンフットボールやモンテルージャズフェスティバルなど国内外からの来街者を集客できる数々のイベント開催を積極的に取り組まれる一方で、大型観光バス利用による来街者が安全・便利に乗降できるスペースづくりは、人口146万人の政令都市の表玄関として喫緊の課題と認識しております。

また大型観光バス駐停車場の設置により、旅行会社によるツアー企画や、観光客、来街者の利便性が図られ、宿泊・買物・飲食など川崎駅周辺の商業活性化にも大きく寄与するものと考えております。

つきましては、貴台におかれましては斯かる状況をご斟酌いただき、川崎駅周辺の大型観光バス駐停車場の設置の確保につきまして特段のご配慮を賜りたく、地元産業界の総意として、ここに要望するものであります。

要望事項

当面の策として「日進町交差点手前側道（「靴のヒカリ」前付近市道）・歩道・駐輪場・管理棟など」を大型観光バス駐停車可能なエリアとして再整備することを要望いたします。

平成24年・平成25年・平成26年と、要望活動を継続しており、大型観光バス停車場については平成26年3月に、川崎大師大開帳奉修に合わせ、「靴のヒカリ」前を、臨時乗降場所として利用させていただくことになりました。これを契機に、同地を大型観光バス乗降場所として通年利用させていただきたく、併せて大型観光バスの駐車場もないため、駐停車場として設置させていただきたく要望いたします。

要望事由

1. 商業活性化による経済的な効果が大きい

現在大型観光バスの駐停車場不足により外国人を含む多くの来街者が他都市に奪われているのが現状であり、大型観光バス駐停車場の拡充により、地域大型施設・商店街にも多くの経済効果も期待できる。特に羽田空港の国際化・キングスカイフロント開発による商業的・経済的な期待効果は大きい。

2. 観光産業の育成に貢献できる

平成22年3月の「観光に関する市民意識調査」でも大型観光バスの駐停車場の充実が観光需要の増大・サービスの向上に効果があると指摘されており、観光産業の育成・観光客の増大に貢献できる。

3. 路上駐・停車などによる混雑緩和が期待できる

現在、市役所通り・国道15号線は大型自動車の駐停車場となっており、混雑の原因となっている。これにより混雑緩和はもとより安全な街づくりにも貢献できる。

4. 大型観光バス駐車場閉鎖の救済策となる

現在、旧川崎球場にあった大型観光バス駐車場は富士見周辺再開発にともない閉鎖・撤去され、川崎競輪場の有料駐車場に3台分のスペースはあるが予約ができず観光バスには不向きである。川崎に現存する大型観光バス駐車場は川崎マリエンのみとなり、駅前に設置するこの整備は有効な代替策となる。

5. 国際都市にふさわしい街づくりができる

川崎駅周辺は、他都市に比し大型観光バス駐停車場は極端に少なく、外来者に多くの不便や時間的ロスを強いてきた。この整備によって改めて都市機能として広く歓迎できる環境ができる。

以上